



## 北陸・女性コンサルタント技術者懇談会を初開催

～建設コンサルタント業務について受発注者の女性技術者が意見交換～

今後の建設コンサルタント分野の担い手確保を鑑みた場合、若手技術者の確保と並んでますます期待されているのが「女性技術者」の存在です。

しかし、女性技術者が、より一層活躍するためには、更なる環境改善が必要との声も聞こえます。

そのため、今後のコンサルタント業務における更なる品質確保や生産性の向上とあわせ、受発注者コミュニケーション等、取り巻く環境の改善のための声を直接お聞きするため、受発注者による「北陸・女性コンサルタント技術者懇談会」を初めて開催しました。

—主な意見・要望—

### ■ テーマ1：土木分野に進んだきっかけ

- 中学生の頃、阪神淡路大震災で構造物が崩壊した光景を見て、災害に強い街づくりに関わりたいと思った。
- 小学生の頃、自宅の近くで明石海峡大橋が目の前で出来上がっていく様子を見て興味を持った。
- 父親が橋梁建設に従事しており、自分も携わりたいと思った。  
等、災害や大規模構造物の建造の実体験、親の職業などの影響が多かった。

### ■ テーマ2：職場環境、業務環境について

【休暇（有給休暇、産休・育休）の取得しやすさ】

- 有給休暇の取得は、周りの雰囲気にもよるが、あくまでも個人の意識次第ではないか。
- 自分が初めて産休・育休を取得した。早く仕事復帰したかったので育休は1年未満で終わらせたが、復帰後は育児短時間勤務制度を活用して早退させてもらっている。仕事を続けるのは無理かと思ったが、上司の理解で続けることができている。
- 育休については、まだ男性社員の理解が進んでいない雰囲気もあり、取得はしたが後ろめたい気持ちになった。
- 女性技術者の育休取得は進んできており、復帰後の時短勤務もできるが、給与の減額などもあるので、さらなる改善を目指して、女性ワーク・ライフ・バランス部会を立ち上げて取り組んでいる。
- 男性社員も育休を使っている。
- 今後、産休・育休を取得したいと思っているが、長期間休むと、居場所がなくなると言われた先輩もいて不安もある。
- 産休・育休を取得する人は一般的な作業のみをしている技術者で、対外的調整が必要となる管理技術者は産休・育休を取れない。
- 夫が単身赴任中のため、自分が出張する際は、自分の母に来てもらって子供の面倒を見てもらっている。 等

### 【残業の頻度】

- 独身の頃は深夜まで残業していたが、出産後は定時に退社するようにしている。終わらない仕事がある場合は、夫が休みで子供の面倒を見てもらえる土日に処理している。
- ほぼ毎日残業している。ノー残業デーは設定されているが、ほぼ誰も使っていないのではないか。
- 周りの雰囲気によると思う。
- 残業チェックがかなり厳しいので、最近は一定の時間になったら強制的に退社するようになっていく。
- ノー残業デーは、12月くらいまでは使えるが、年度末は無理。夏期は早出残業制度を取り入れている。
- 時短勤務をさせてもらっていて、育児期間中は定時に帰宅できるような部署への配属などの配慮をされている。
- 時短制度を活用させてもらっているが、定時に退社するために、集中して仕事をこなしている。男性女性関係なく、残業時間の多さは集中力の密度によるのではないかと。等

### 【働く場所のアメニティ（トイレ、休憩場所、等）】

- 女子更衣室がないため、現場に行く際はトイレで着替えている。
- 女子トイレが少ないので増やしてもらおうよう、要望している。
- 事務職の女性が多いので、アメニティに関しての不都合は感じない。
- 現場では、男女共用のトイレの場合でも個人的には不便ないが、生理の時などは抵抗がある。等

## ■ テーマ3：今後のコンサルタント業務について

- 今後の設計業務は、インフラストックの長寿命化のため、補修設計が多くなると予想されるが、これからコンサルタント業務に入ろうと考えている若い女性技術者のためにも、新設の大規模構造物の設計の発注も期待している。
- 総合評価方式において、表彰の有無は落札できるウエイトは大きいと思うが、その成果のために要した「時間」の概念を取り入れてはどうか。男性は時間無制限で仕事ができても、女性は家庭や子育てで労働時間的に制約が生じることから、成果に違いが出てくると思う。同じ条件（時間）で競争させるという考え方も必要ではないか。
- 女性管理技術者を配置したら加点する総合評価を検討してほしい。  
一方で、管理技術者が女性なら誰でも（担い手の対象とならないような）良いのか？という懸念もあるので、評価基準の設定など、制度として担い手確保につながるよう、良く検討して実施してほしい。  
その上で、履行期間の考え方などの工夫も検討していただきたい。

## ■ その他

- 他の女性技術者の状況を聞いたので非常に有意義であり、また次回の開催を希望する。  
また、開催時期は業務の繁忙期を避けて、春～夏ころにしてほしい。
- テーマに対して事前に参加者から意見を提出してもらい、事務局にて集約した結果を基にディスカッションするという方法もあると思う。

## (参考) 開催概要

[日 時] 平成29年1月17日 14:00～15:30

[女性技術者の出席者]

受注者…11人 ((一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部から推薦があった女性技術者)

発注者… 3人

受注者
開発技建(株)
(株)国土開発センター
大日本コンサルタント(株)
エヌシーイー(株)
(株)キタック
(株)建設技術研究所
(株)日本海コンサルタント
大原技術(株)
(株)東京建設コンサルタント
東京コンサルタンツ(株)
パンフィックコンサルタンツ(株)

発注者 (北陸地方整備局)
企画部
信濃川下流河川事務所
新潟国道事務所

[懇談会の様子]



### 【同時資料配付先】

- ・日刊建設通信新聞社 新潟支局
- ・建設ジャーナル社
- ・北陸工業新聞社 新潟支局
- ・日本工業経済新聞社 新潟支局
- ・産業新聞社 信越支局
- ・新潟建設工業新聞社
- ・日刊建設工業新聞社 北陸総局
- ・鉄鋼新聞社 新潟支局
- ・(株)建設速報社

### 【問合せ先】 国土交通省 北陸地方整備局

〒950-8801 新潟市中央区美咲町1-1-1

TEL 025-280-8880(代)

地方事業評価管理官 高島 和夫 (内線2118)

企画部 技術管理課 基準第二係長 田中 純彦 (内線3341)